

学術情報

第5回東京女子医大漢方医学研究会

日時 昭和59年11月27日(火)午後17時30分より

会場 東京女子医科大学中央校舎1階会議室

座長 肥田野 信

1. 過去4年間に当科で行なった漢方治療の成績
(精神科)
○田中 朱美・細川 久美・池田 和広
2. 脈診の客観化I. 感冒における脈診上の変化
(産婦人科)○谷 美智士・黄 長華・
井口登美子・吉田 茂子
3. 脈診の客観化II. 正常妊婦及び子宮筋腫における脈状の変化
(産婦人科)○黄 長華・谷 美智士・
井口登美子・吉田 茂子
4. 膠原病患者と瘀血
(皮膚科)
○月本 厚美・尾立 冬樹・肥田野 信
5. 小柴胡湯が有効であった腎移植後肝機能障害の2症例
(腎センター)
○菅 英育・水口 潤・寺岡 慧・
高橋 公太・吉田美喜子・太田 和夫
6. 小柴胡湯と桂枝茯苓丸を併用した肝疾患の検討
(消化器内科)
○中島 弥生・久満 董樹・小幡 裕
7. 気管支喘息及び気管支炎に対する良導絡療法の試み
(第2病院小児科)
○橋本 節子・本城美智恵・
木藤香代子・村田 光範
8. 高血圧症における柴胡加竜骨牡蛎湯の使用経験
(第2病院内科)○菊地 長徳
1. 過去4年間に当科で行った漢方治療の成績
(神経精神科)
田中 朱美・池田 和広・細川 久美
うつ病の診断で治療中の患者のうち、比較的身体症状の目立つ66例(男38例,女28例)に漢方療法を行ない、漢方側からと精神科側からと同時に判定を行なった。漢方側からは、初診時の主症状が大部分消失した場合を著効、半分以上消失した場合又は大部分の症状が明らかに軽減した場合を有効とした。著効18例

(27.3%), 有効22例(33.3%), 合わせると40例(60.6%), 無効, 不変ともに13例(19.7%)ずつであった。精神科側からは身体症状と共に不眠, 抑うつ気分その他の精神症状が改善された場合を改善とし, 26例(39.4%), 不変31例(47%) 不明9例(13.6%)の結果であった。漢方著効18例中精神科的改善例は15例(83.3%)漢方有効22例中精神科的改善例は11例(50%)と漢方薬に反応する症例は向精神薬にもよく反応することを示唆しているものと思われる。また改善例は比較的罹患期間も短かく症状も軽く, 東西医学ともに重症なものは治りにくいという平凡な結果となった。改善例26例に使用した主な方剤は20例(77%)が実証よりの方剤であった。この結果は今後精神疾患にどのような漢方薬を使っていくかの一つの手がかりとなると思われる。

2. 脈診の客観化(I) —感冒における脈診上の変化と試作脈診計—

(産婦人科)黄 長華・谷 美智士・
井口登美子・吉田 茂子

中国医学における脈診を客観的に表現するために半導体ストレンゲージを利用した試作脈診計を作成し, 種々の病症及び状態に使用し, 古典の脈診と比較検討した。

まず浮, 沈の証を加温及び寒冷刺激によって作り, 古典的脈診において浮, 沈の脈証を確認した後, 脈診計における脈波形の変化を観察した。その結果, 浮脈は波形上で微分脈波の垂切痕が深く大きな波形に変化し, 沈脈では逆に浅い小さな垂切痕へと変化した。また飲酒による浮脈化と感冒初期の浮脈とは波形上同様の変化を示し, 試作脈診計が中国医学でいう脈状の変化を十分捉えうる可能性が確認された。又, 脈診上の基本的変化の一つである虚脈と実脈については, 測定感圧素子の圧迫圧の変化に対する脈波振幅の大小及び出現の消去圧を測定することにより鑑別可能であることが解った。以上から本脈診計は脈診の基本である六粗脈の弁別については十分使用可能であり, 臨床使用に耐え得るものであると思われる。

3. 脈診の客観化(II) —正常妊婦及び子宮筋腫における脈状の変化—

(産婦人科)黄 長華・谷 美智士・
井口登美子・吉田 茂子